

地域安全学会・石垣市 公開シンポジウム現地見学会をコーディネートしました (2017/06/10)

テーマ：リスクコミュニケーション，災害科学 1771 年八重山明和津波
場所：石垣市民会館，石垣島全域

6月10日(土)，石垣市民会館（沖縄県石垣市）で地域安全学会が主催，石垣市が共催する公開シンポジウム「低頻度巨大災害への備えとリスクコミュニケーション」が開催されました。同シンポジウムは，前日から開催されている第40回（2017年度）地域安全学会研究発表会（春季）と併設して開催されたもので，当研究所の越村俊一教授（災害リスク研究部門）が幹事を勤めました。公開シンポジウムでは，越村教授が総合司会を務め，3件の講演とフリーディスカッションが行われました。講演では，「琉球列島における低頻度巨大災害・津波のリスク」と題して，当研究所の後藤和久准教授（災害リスク研究部門）が長年に渡る過去の津波の調査やシミュレーションの結果を紹介しました。シンポジウムでは，学会会員だけでなく，市民の方々も含め，約80名と多くの参加あっただけでなく，フリーディスカッションにて活発な議論がなされました。

同日の午後からは，現地見学会「八重山大津波の歴史をめぐる」も開催され，後藤准教授がガイドを勤めました。現地見学会では，桃林寺，大浜の津波大石，宮良湾の津波石群，明和大津波避難者慰霊之塔，千人墓などを訪れました。



越村教授（シンポジウム総合司会）



後藤准教授（講演の様子）



現地見学会の様子（中央：後藤准教授）